

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105198
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホーム サンライト
訪問調査日	平成21年3月25日
評価確定日	平成21年4月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105198
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホーム サンライト
所在地	鹿児島市川上町570-297 (電話) 099-295-7878
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造鉄骨造りスレート葺き		
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	肥後クリニック 中央病院 林歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

真新しい家々が立ち並ぶ住宅地の一角に、周囲と溶け込むようにたたくホームである。思いやりと優しい気持ちを念頭に、できるだけ利用者と一緒に過ごし、語らいの時間を多く持てるように業務内容を見直すなど、常に自らのサービスの質向上に取り組んでいる。開設から3年を迎え、近隣住民との交流も徐々に深まりを見せており、さらに地域全体の福祉向上を目指して、行政や関連事業者と連携、協力している。法人としての支援体制も充実しており、化粧教室の開催やアニマルセラピーなど、利用者のより良い日々のために有効に活用されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	役割、楽しみごと、気晴らしの支援について、業務内容の見直しにより、以前よりも利用者と接する時間を多く設け、一緒にお茶を飲んだり話を聞いたりすることで、本人の意向を把握できるように努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行い、その後全体で話し合いがなされている。前回の外部評価結果については、定例会で話し合うなどして改善策を検討し実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ご家族や地域包括支援センター職員等から様々な意見が出され、それらを基に行事が検討されるなど、ホームの運営に活かされている。また、すべてのご家族に会議の趣旨を理解していただけるように、年2回の家族交流会の際は同日に開催している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族交流会での意見や苦情等に対しては、速やかに回答しており、そのほかの意見等についても対策を検討し、結果を「サンライト通信」に掲載している。定例会等で話し合うことで、出された意見が運営に反映されるように職員へ周知徹底している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小・中学校の運動会やバザーに出かけている。また、ホームの餅つき等をチラシで案内して近隣の方々に参加していただいたり、2階の地域交流スペースを活用していただくなど、地域との交流を積極的に図っている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基にしなが、ホーム独自に、「思いやりと優しい気持ちで地域にとけこむ」ことを盛り込んだ理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念が記載されており、職員はいつでも確認して意識することができる。また管理者は、週1回行われる定例会や毎月の職員会議等において、理念について繰り返し話すことで、その共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小・中学校の運動会やバザーに出かけている。また、ホームの餅つき等をチラシで案内して近隣の方々に参加していただいたり、2階の地域交流スペースを活用していただくなど、地域との交流を積極的に図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、その後全体で話し合いがなされている。前回の外部評価結果については、定例会で話し合うなどして改善策を検討し実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族や地域包括支援センター職員等から様々な意見が出され、それらを基に行事が検討されるなど、ホームの運営に活かされている。また、すべてのご家族に会議の趣旨を理解していただけるように、年2回の家族交流会の際は同日に開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請等の手続きで市の窓口を訪れる機会も多く、地域包括支援センター職員とは、地域交流やグループホーム間の交流について、協力連携しながら取り組んでいる。介護相談員の受け入れも積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「サンライト通信」を発行しており、行事の報告や予定をはじめ、利用者毎の暮らしぶりや職員の異動等について報告している。その際、金銭管理状況についても領収証と明細票を同封している。		金銭管理の報告については、定期的に明細票等を発送しているが、後日の確認と説明のためにも、発送記録を残すなどの工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会での意見や苦情等に対しては、速やかに回答しており、そのほかの意見等についても対策を検討し、結果を「サンライト通信」に掲載している。定例会等で話し合うことで、出された意見が運営に反映されるように職員へ周知徹底している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動の際は、引継ぎ期間を半月～1ヶ月設けている。入職後3ヶ月間は、利用者との接点の多い勤務体制とすることで、利用者の理解と関係づくりに重点を置いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が立てられ、関連の5グループホーム持ち回りで研修テーマを決めて資料づくりがなされるなど、職員育成に積極的に取り組んでいる。		研修機会が計画的に設けられており、職員育成の環境は十分整っているため、今後は、さらなる資質向上を目指して、各職員の能力や経験、習熟度等に応じて、段階的に力をつけて行けるような取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区内の他ホームと、ネットワークづくりがなされている。また、市の支所が音頭を取り、地域包括支援センター、幼稚園、身体障害者施設、特別養護老人ホーム等と連携して、地域の福祉充実を図ろうという目的の交流会が設けられ、参加協力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に病院や自宅を訪問することにより、なるべく時間をかけながら接することで、顔なじみの関係づくりを行っている。見学は、いつでも受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の好きなことや得意なことが引き出せるように、時間や場所を工夫して場面づくりを行うとともに、利用者から学ぶ姿勢を大切に接するように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりがその方の立場に立って接し、感じるように心がけている。利用者一人ひとりの言動から、その特徴をとらえて意向を理解し、職員間で共有するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段のコミュニケーションの中から、本人やご家族の意向や要望を汲み取り、介護計画に反映している。さらに、担当職員は計画に沿って毎月の目標を掲げており、月末に評価を行うことによって計画の実効性を高めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月を基本として見直しているが、本人およびご家族からの要望や心身の状態変化に合わせて、現状に即した見直しを行っている。また、業務日誌、ケース記録、担当者の意見等を基に、モニタリング評価表を使い、毎月利用者の現状と計画内容について検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	アニマルセラピーや化粧教室への参加支援をはじめ、マッサージの受け入れや夜間・緊急時の病院受診介助等、多様で柔軟な支援を行っている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人やご家族の希望による。24時間の対応や定期的な診療を受けられるということで、ホームの協力医療機関を指定される場合も含め、かかりつけ医とは、密接に情報交換を行い、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における指針が定められており、同意書等の関係書類も整備されている。早い段階で面談を行い、ホームとしての対応について説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する基本方針を定めており、入居時に本人およびご家族に説明されている。法人内で、倫理・プライバシー保護についての研修も実施されており、記録等の書類は事務室にて適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な生活時間はあるが、その日、その時の利用者の状態に合わせて対応するように心がけている。外出計画がある場合は、拒否される方も想定した職員配置がなされており、無理強いすることなく本人の希望に沿えるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の際、利用者に食べたいものを聞いたり、一緒に食事の準備を行ったりしている。また、食事前に利用者へメニューの説明がなされ、食に対する興味を引き、楽しく食事ができるように工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は固定されておらず、毎日、職員が声かけして、希望に応じて対応している。入浴拒否のある方については、最低でも週2回は入浴できるように、タイミングをみながら声かけして促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	十分に時間をかけて利用者で語り合うことで、一人ひとりの好みや能力を把握して、その方にふさわしい役割や楽しみごとが持てるように支援している。また、季節に合ったレクリエーションを設定することで、楽しみごとや気晴らしの場面づくりがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、散歩や近くの店まで買い物に出かけたりしている。また、ふれあい館や花見のできる公園等へドライブする機会も設けている。車椅子の方も、希望に応じてなるべく外出できるように対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていない。ご家族から不安の声もあるが、鍵をかけないケアについての趣旨を説明し、理解を求めている。近隣の方々にも声をかけ、協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署およびセキュリティ会社と合同で避難訓練を実施している。また、日常でも時折、消防署員の訪問があり、ホームの状況について把握してもらっている。警報システムを設置しており、近隣の方の協力もお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については、1200～1500mlを目安と定め記録の上確認している。また必要に応じて、かかりつけ医からの指示を受けて管理されている。献立については、2週間ごとに法人の管理栄養士から指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節に合った人形が月替わりで飾られている。リビングにはソファや椅子が置かれ、くつろげるスペースとなっている。和室から望める中庭では花火や日向ぼっこもでき、梅の花等を眺めて季節を感じることもできる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやエアコン、洗面台等が設置されている他、利用者が使い慣れた家具やテレビ等が持ち込まれ、自由に配置されている。		